

未来教育 3

【「思考力・判断力・表現力・課題解決力」 の絵で見るコーチングシート】

文部科学省採択事業「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」

『課題解決能力の獲得を可能とするプロジェクト学習とポートフォリオ
教員研修プログラムの開発～コーチング指導による「コンピテンシー育成」
を目指して～』

報告書（H22）より

シンクタンク未来教育ビジョン

思考力を伸ばす コーチング

比較・分類

小学校5年生の社会科。2つのグラフを視覚的に比較し、捉えることで、それぞれの地域の気候の特色をつかむ。例えば、稚内と那覇の年平均気温・降水量のグラフを比較して、気候の違いに気づかせる場面。



「比べるって、どういうことだと思う？」

教師



「ちがいを見つけるとか…」

「同じところを見つけないとか…」



「この2つのグラフから何が見える？」

or

「この2つから分かることは何？」



「えーと、那覇市の方が年平均気温が高い」



「なるほど！ どこでそれがわかるの？」



「なぜなら、このグラフで3～6月の気温が、稚内の気温を大きく上回っているからです」

◆ポイント◆

“比べる”という概念を、子どもが捉えているか。

比べるということは、同じベースラインに立っているからこそできる、ということ子どもたちが理解できる場面を入れる。友だちとの身長なら、地面という情報の基準があるから比べられる。

見て発見したことに留まらず、“なぜならば…”と、根拠（数字や固有名詞）を入れて話せる、ということが大事。これをねらいとして、コーチングのセリフを考える。

しばしば、「よく見ようね！」「比べてごらん」だけで終えたり、「これを見ればわかりますよね。那覇の方が年平均気温が…」と、すべて教師が言ってしまうことがある。すると、子どもは「はい」で終わり、自分で考える必要がない状況となってしまう。

「稚内は気温が低い」のような回答に対しては、「『稚内“より”那覇が』『稚内“と”那覇とでは』のように、2つの地名が両方入るように答えてみよう」と促すことも比較する思考を誘いやすい。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

・社会科	P.36～37	第5学年	2内容	(2)～(4)
・国語科	P.22	第3学年及び第4学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1)(2)
	P.24	第5学年及び第6学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1)
				B書くこと(1)
				C読むこと(1)(2)
・算数科	P.43	第1学年	2内容	A数と計算(1)
				B量と測定(1)
	P.45	第2学年	2内容	A数と計算(1)
・理科	P.62	第3学年	2内容	B生命・地球
	P.65	第4学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第5学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第6学年	2内容	A物質・エネルギー
・総合的な学習の時間	P.110	1「目標」		

思考力を伸ばす コーチング

比較・分類

4年生が、総合的な学習の時間で、調査結果を分類する。自分の住んでいる町に対することを、住民がどう思っているかインタビューしてきた。



「何のために分類してるの？」

教師



「自分たちの町に住んでいる人がどう思ってるか知
ため」



「どういう人に聞いたの？」



「古くから地元に住んでいる人に聞きました」



「チームのゴールはなんだっけ？」



「自分たちの町に住んでる人が、どう思ってるかです」



「自分たちの町ってどういう人？」



「新しい人も、古い人もどっちもいる。あっ、そうか。
新しい人にも聞かなくちゃ！」



「たしかに！」

◆ポイント◆

どんな活動でも、先生は、改めて「何のため
に？」という目的を問う。

一部の人にしか聞いていないのであれば、
偏っている情報かもと本人が気づくことを
促す。

「何のために」調べているかを見失わせない。

情報リサーチに行く前に、何のために何を
やり遂げたいのかを考え、今日の目標とし
てしっかり紙に書き、それを見ながら活動
できるようにする。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

・社会科	P.36～37	第5学年	2内容	(2)～(4)
・国語科	P.22	第3学年及び第4学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1)(2)
	P.24	第5学年及び第6学年	2内容	A話すこと・聞くこと(1) B書くこと(1) C読むこと(1)(2)
・算数科	P.43	第1学年	2内容	A数と計算(1) B量と測定(1)
	P.45	第2学年	2内容	A数と計算(1)
・理科	P.62	第3学年	2内容	B生命・地球
	P.65	第4学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第5学年	2内容	B生命・地球
	P.67	第6学年	2内容	A物質・エネルギー
・総合的な学習の時間	P.110	1「目標」		

思考力を伸ばす コーチング

関連付け

中1の社会科（地理的分野）。①年齢別農業従事者数、②国内農業総生産の変動、という2つのグラフを関連づける。



「この2つのグラフから、見えるものは？」



「……………」(しばらく考えている)
「日本の農業の大変さがわかります」



「どうしてそれがわかるの？」



「ここで、生産量が減ってるってわかります」



「その理由は…、若者の農業従事者が減っているからじゃないですか」



「なるほどね、どうしてそれがわかるの？」



「だんだんにグラフの線が下がっていて、農業総生産が減っています、これでは暮らしていけないから、若者が減ってるんだと思います」



「うん！ いい発見だね！ ほかに2つの変動のグラフを並べて見えることはありますか？」

◆ポイント◆

ここで大切なことは、2つの提供されている情報の異なるグラフを見て、相互に含まれる要素全体の傾向などの関連付けや関係に気づくこと。

生徒が考えている沈黙の時間を待ってあげよう。その時に、自分の頭の中で、何かを発見しようとしているのだから。

2つのグラフを並べて、その関連付けの思考を促すためには、「①グラフから発見したことの理由が②グラフにあるんだ。それは何だろう？」と、頭の中で考えられるようになることがポイント。

生徒が発見したことは、明らかな誤解や解釈の勘違い以外は、正解、不正解と、簡単に決めつけることはできない。教師が意図している視点以外でも否定せず、根拠を問うとよい。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・社会科 P.36～37 第5学年 2内容 (1)(2)
P.39 第6学年 2内容 (1)(2)
- ・体育科 P.96 第3学年及び第4学年 2内容 G保健
P.99～100 第5学年及び第6学年 2内容 G保健

表現力を伸ばす コーチング

比喩

5年生の国語。「比喩」を使った作文を書かせた時。



「昨日1日で一番印象に残っていることは何？」



「晩ごはんを食べ過ぎて、おなかいっぱいになった」



「“一番”心に残ってることは何？」



「焼き肉で満腹！」



「満腹以外で表すとどう？」



「たらふく、シャツが破れそう」



「ビジュアル的には？」



「すもうとりのような、白鵬みたいな」



「ほかには？」



「風船のようにふくらんだおなか…」



「このような、いろいろな言い方ができるって、あなたにとって、どう？」



「そりゃ、すごくいいよ！ 相手にほくが伝えたいことが、いろんな言い方ができるから」



「どうしてそれがいいの？」



「だって、ほくの頭の中にあることが、そのまま相手に伝わるからだよ！」

◆ポイント◆

はじめから、「“比喩”を使って書きましょう」ではなく、印象、インパクトのあるその子の気持ちを表出させ、いろいろな表現を引き出すことも有効。

いろいろな表現を湧き上がらせることができるために、比喩を駆使したいというモチベーションが大事。

比喩を使って話せることの価値を本人が感じ、口にして言えるシーンは、その子にとっても、ほかの子にとっても大事な意味をもつ。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 P.25 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと
- ・国語科 P.27 第5学年及び第6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
- ・音楽科 P.79～80 第5学年及び第6学年 2内容 A表現 B鑑賞
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

表現力を伸ばす コーチング

隠喩

夏休み明けの国語の時間。夏休みの思い出をもとに、1行詩を書かせる課題。



「夏休みは、どこへ行ったの？ 一番忘れられないことは？」



「あのね、鉄道写真を撮ったんだ。初めて汽車を見たんだよ」



「どんな様子だったから忘れられないの？」



「一生懸命な感じだった！」



「どうして一生懸命だと思ったの？」



「だって、汗かいて、ぜいぜい言ってたもん！」

◆ポイント◆

隠喩、つまり、「～のような」「～みたいな」を使わずに書いてみようと言っても、子どもには難しい。

一番インパクトのあるその様子を伝えたいというモチベーションがあれば、子どもは、表現を工夫する。

うまく表現できない状況のときは…、「例えば、その物が、“人間の気持ち”を持っているとしたら…」と問いかけても、子どもは表現しやすくなる。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 P.25 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと
- ・国語科 P.27 第5学年及び第6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
- ・音楽科 P.79～80 第5学年及び第6学年 2内容 A表現 B鑑賞
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

表現力を伸ばす コーチング

非連続テキスト

社会科または総合的な学習の時間。工場見学のとまめの新聞づくり。文字ばかりになっているものを図や表、写真などの文字以外の様々な非連続テキストを必要に応じて使えるようにする。



「何のために新聞を作るの？」



「自分が発見したことを伝えたいから」



「ところで、新聞ってどんなもの？」



「情報を伝えるもの」



「どんな人に伝えたいの？」



「同じ5年生のクラスの友だち。僕だけが知っていることがあるから、一緒に行ったみんなに、それを伝えたいから」



「何を発見したの？」



「あのね。作業服の色が、仕事によってちがうんだよ。物を運んでいる人は青で、監視している人はオレンジ色で、機械を操作している人は緑だった」



「すごい発見だね。それを、最もわかりやすく伝える工夫は？」



「……………」(考えている)
「もらったパンフレットにあった見取り図に、その人たちが立っていた位置に、その色の印をつける！」



「わかりやすくていいね!!」



「先生、図や写真を添えると、文章だけでは伝えられない、それぞれの人の関係や数まで伝わるんだね」

◆ポイント◆

目的意識

新聞を作る「目的」を問う。

表現したい相手

読む相手を意識する問い

「最もわかりやすく」や「一番有効な方法は？」などのコーチングは、相手に焦点を絞る思考を促すことができる。

必然性

自分が最も伝えたいことのために、文章ではなくて、図やグラフがあるのだ！有効なんだ！という気づきを大切にす。

子ども自身が図や写真を、文章と組み合わせることが効果的な表現手法であることに気づき、ほかにも活用できるようになる。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 P.25 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと
- ・社会科 P.37 第5学年 2内容 (4)
- 第6学年 2内容 (3)
- ・算数科 各学年 1「目標」(4)
- ・生活科 目標 (4)
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

表現力を伸ばす コーチング

平易・簡潔

その内容がわかっていないと、それをわかりやすく表現することができない。下級生に委員会の仕事をわかりやすく伝える場面。



「環境委員会の仕事をわかりやすく言って」



「花だんの世話」



「具体的には？」



「毎朝やってるよ」



「5年生と6年生でやってるよ」



「ほかには？」



「水をやって、雑草を抜いているよ」

⋮



「わかりやすいよね！ どうしてだと思う？」



「時間と、人と、具体的な仕事を入れたから！」

◆ポイント◆

「相手を意識した表現にする」「ゆっくり、一つ一つ」「なるべく短い表現で」など、子どもが、そのイメージや工夫を考え、そうできる工夫を自らすることも有効だが、より大事なものは、要素の拾い上げ。それを伝えるために言わなければならない要素の拾い上げができ、それを最小限で表現できることが大切。

例えば、5W1H（いつ、どこで、だれが、何を、どのように、どうする）など。

子ども自身が、わかりやすさの普遍性を言語にし、自覚することにより、活用できるようになる。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 各学年 1目標 (1)(2) 話す能力・書く能力
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

課題を発見する

知識やスキルを活用するのは、机上ではなく、目の前の現実です。子どもが自分の目で現実を見て、そこから課題を発見できるようにする。



教師

例えば、図書館の利用状況に潜む課題を発見してほしいとき。

いろいろな表現

「“今”はどうかの？」

or

「“朝”はどうかの？」

or

「あなたから見たらどう？」

or

「あなたと反対の立場の人から見たらどうだろう？」

or

「雨の日はどんな状況だろう？」

or

「高学年にとってはどうだろう？」

◆ポイント◆

「現状」と「目標（あるべき状態）」とのギャップが「課題」。したがって、課題を発見するためには、まず「現状」を把握することが必要。

だから「“今”はどうかの？」と、現状と対座するコーチングをする。

課題は、現実の中にある。その現実に対して、子どもが多面的に状況・現状を見ることができそうなコーチングをする。

「〇〇が問題です。課題は〇〇で、その要因は〇〇で…」と、すべて教師や教科書が与えてしまえば、子どもは自ら課題を考える機会を失う。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 P.32 P.25 2内容 「話すこと・聞くこと」
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「事象を調べ、問題を見いだす」
- ・体育 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年
A 体づくり運動～F 表現活動 「自己の能力に適した課題を見つける」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

小学校5年生の国語の時間。図書室改造の提案をするという単元。

目標決め



「図書館、今はどうなの？」

教師



「このデータから見ると、低学年や中学年は、たくさん利用しているけれど、高学年はほとんど利用してなくて問題です」



「じゃあ、どうなったらいいの？」



「学校の全部の学年の人が、たくさん図書館を利用してくれたらいいな」



「じゃあ、そのために、具体的に何を目標にしますか？」



「えーと、5・6年生は、放課後は忙しいから…」
「高学年が、昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します！」



「楽しみな、いい提案ね！」

◆ポイント◆

自分（たち）の目標を明確に決めることが大事。そのためにも現実（今）と対座し、根拠ある情報を得ていること。

「目標」を決める際には目的（願い）が要る。「問題」を「願い」に昇華させる。

「あるべき像」や「願い」を言ってもらい、それが、目的（何のために）になる。

「願い」を「具体的な目標」にするコーチング。

曖昧でなく、焦点の絞れた目標となることが大事。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 P.32 P.25 2内容 「話すこと・聞くこと」
- ・社会科 各学年 1目標（1）調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標（1）「事象を調べ、問題を見いだす」
- ・体育 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年
A 体づくり運動～F 表現活動 「自己の能力に適した課題を見つける」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

計画を立てる

自分の決めた目標を達成するために、計画を立てて、そこへ向かうという場面。

 「えーと、とりあえず、インターネットで調べて、インタビューもするし、アンケートを100人にとる！」

 「このために使える時間はどれくらいあるの？」
教師

 「えっ！ 考えてなかった！ えーと、木曜日の3時間と…」

 「あなたの目標は何？」

 「『高学年が昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します』です」

 「そのために、しなければいけないことは何？」

 「えーと、今、高学年が、実際にどれくらい昼休みに図書館を使っているか調べる」

 「ほかには？」

 「何で図書館に来ないのか、インタビューする」

 「いいね。ほかには？」

 「あと…」

 「紙にどんどん書き出してみよう！」
「目標は何だっけ？」

 「『高学年が昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します』です」

 (全部出尽くしたら) 「そのために、“絶対” にしなきゃいけないのは何？」

 「えーと、(と、紙に書き出したものを俯瞰して、) これです！ 図書司書の方から、高学年の利用データをもらうことです！」

◆ポイント◆

“とりあえず調べる”はダメ。限られた時間の中で、絶対にしなくてはならないものを洗い出し、優先順位を決めるという考え方を持つようにすることが大事。

目標に立ち戻らせる。

発散と収束

目標達成に必要な、すべきことをどんどん出す(発散)。

常に目標に立ち戻らせる

優先順位が考えられるようにする。

目標達成に絶対にしなければならないことにしぼりこむ(収束)。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 2内容 A話すこと・聞くこと (2)
B書くこと (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

情報の獲得

昼休みに高学年が図書館を利用ようになる解決策を考えるために、情報を手に入れようとするシーン。



「あなたの目標は？」

教師



「『高学年が昼休みにもっと図書館を利用したくなる工夫を提案します』です」



「そのための情報は、どこにあるの？」



「図書司書の人を持っているかも…」



「その情報を手に入れるために、あなたが使える手段は何？」



「インターネット！」



「いいね！ ほかに？」



「6年生に実際に聞く（インタビューする）！ アンケートをとる！ あと…」



「一番有効なのは？」



「今まで図書館を自分から使ったことのない6年生にインタビューする！」

◆ポイント◆

教師から「○○で調べてみよう」と言わない。子どもが情報のありかをイメージして考え、口にするようにしよう。

インターネットだけでなく、多様な手段で情報を手に入れることが大事なんだという気づき。

自分の目的・目標のためには、一番要る情報は何かを考え出せるようにしよう。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年 2内容 A話すこと・聞くこと (2)
B書くこと (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

情報の見極め

みんなに納得してもらえ提案をするためには、正しい情報に基づかなければならない。そのために、正しい情報を手に入れようとしているシーン。



「情報を手に入れる時、気をつけることってある？」



「正しい情報を集めるんだ！」



「正しい情報って、何？」



「うーん…」



「新聞に書いてあること！」



「新聞だって、正しいとは限らないかも…A社とB社
がちがうときがあるし…」



「あっ！新しい情報。古いのは、もう変わっている
かもしれないし…」



「うーん。新しければ正しいとも限らないでしょう…」

◆ポイント◆

“情報は容易に手に入る”という考え方が変わる。

「“正しい情報”って何なのか？」を考えることは大事。立場や状況によって、“正しい”はちがうという気づきは貴重。

現場の写真であったとしても、事実のほんの一部であり、ちがうとらえ方をしている自分がいるかも…。

正しい情報とは何なのか、この深遠なる問いをもつこと自体に価値がある。

安易に目の前の情報を信じず、ほかの手段でも手に入れ、自分の頭で考えようとする姿勢になってほしい。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと (1) (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

制作・再構築

テーマのもとに互いの考えを出し合い、根拠ある情報をもとに課題解決策を生みだしプレゼンテーションの制作物を作り上げる場面。
(再構築は、プレゼンテーション後に提案集などを作る場面)



「何のためにつくっているの？」



「ぼくの考えた取り組みが、役立てばいいなあと思って」



「誰のために？」



「ぼくのクラスの人たち」



「ほかには？」



「小4の弟やお母さんも聞くかもしれない」



「そのために何か制作で工夫できることはありますか？」



「難しい漢字にはフリガナをつける」



「見た人に信頼されるために工夫できることってある？」



「う～ん。使った情報に根拠を添える。ホームページのアドレスとか、日付とか、出典なんかも」



「とても安心して見てもらえそうね！」



「それを見た人がどうなってほしいの？」

「それが最も伝わるための工夫は？」



「それを見て傷つく人はいませんか？」

◆ポイント◆

プレゼンの工夫は、相手を意識し、客観的に行うことが大切。

<制作条件>

- ・提案テーマ
- ・現状・課題
- ・課題解決策
- ・具体的な提案

それぞれをかたまりで作って、そのかたまりをレイアウトする — 知の構築を紙の上でする。

提案内容は、現状をしめす「データ」「グラフ」など「根拠ある情報」を入れる。

具体的な提案には、「図やイラスト」「手順を示す矢印」「ポイント」などを含める。

<再構築の3条件>

1. 自分たちの考えであること
2. 根拠ある情報と概念図等を含むこと
3. 現実に、こうすればできるという「具体的な提案」であること

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと (1)(2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

プレゼンテーション

プレゼンテーションは、調べたことを発表することではなく、自分たちがこれまでやってきたことの成果を相手にプレゼントすること、一言で言えば「知の共有」です。



教師

いろいろな表現

「何のためにプレゼンテーションするの？」

「どんな人のためにプレゼンするの？」

「伝えたいことを一言で言うと？」



(他者のプレゼンへの評価)

「ここがよかったということを、ピンク色の付箋に書き、その箇所にはってあげましょう」

「こうしたらもっとよくなるというアイデアを、ブルーの付箋に書き、その箇所にはってあげましょう」



(プレゼン後に)

「プレゼンテーションはどうでしたか？」

「その理由は？」

「もう一度するとしたら、具体的にどこをよくしますか？」

◆ポイント◆

「何のためにするのか」

「どんな力を身につけたいのか」

「どのような効果をもたらしたいのか」をはっきりさせる。

プレゼンテーションを見ている人も共に考える姿勢をもてる

プレゼンテーション後、次に役立つような自己評価を促す。

すべてのものは、もっとよくなる、よくしたい、という気持ちや思いをもつことが大事。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・国語科 第5学年及び第6学年 2内容 B書くこと (1) (2)
- ・社会科 各学年 1目標 (1) 調べたことや考えたことを表現する力
- ・理科 各学年 1目標 (1) 「見いだした問題を興味・関心をもって追求」
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」

活用力・課題解決力を伸ばす コーチング

成長確認

ゴールに到達した時の自分の変化・変容を実感すると自信がわく。自分の成長や身についた力を本人が自覚できるシーンを設けよう。



教師

いろいろな表現

「成長って何？」

「その経験から得たことはなんですか？」

「それは何に使えますか？」

「その時間で成長したことは何だと思う？」

「その経験で何を学びましたか？」

「それをしてうまくいったことは何？」

「なんでうまくいったんだろう？」

「前と変わったところはどこ？」

「前よりうまくなったことは？」

「うまくいかなかったインタビューから得たことは何？」

◆ポイント◆

自分で自分の成長や身に付いた力を「自覚」するようにする。

自分の成長に気づく場面は、次へのモチベーションにつながる。

「成長したね、よかったね」で終わらず、身についた力を書きたすことで、「顕在化」できる。それを自覚することで「再現性」につながる。そして、それを使うことで、「恒常性」が生まれる。

自分で自分の成長を確認するとき、自分で自分の成長を実感することができ、さらにやる気が出る。

自分の成長を自覚する、それは確かな自信となり、次の成長へとつながる。

「未来の助走につながる成長の気づき」になるような、成長を気づかせる場面でありたいもの。

ポートフォリオは、自分の成長していくプロセスや“ここで私は深く考えるようになったんだ”など、知的、感情的な変化、変容の可視化を叶える。

●上記のコーチングが応用できる…小学校学習指導要領のページ

- ・第1章「総則」 第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項
 - 2 - (2) 自主的・自発的な学習を促す
 - 2 - (4) 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に
 - 2 - (11) よい点や進歩の状況を評価 指導の過程や成果を評価 指導の改善を行い学習意欲の向上を図る
- ・総合的な学習の時間 P.110 1「目標」